

## 「四国の道づくりを考える」公開シンポジウム

四国地方幹線道路協議会が取り組んでいる道ビジョン策定にあたって、広く一般の皆様からご意見を頂く一環として、「四国の道づくりを考える」公開シンポジウムが24日(土)、高知市内で約500人の参加により開催された。

シンポジウムでは、地方の道路整備に対する強い批判や道路財源制度見直し論に対して、今後の四国の道路づくりがどうあるべきか、中央の有識者と四国在住の学識者、自治体代表者間でのパネルディスカッションに加え、会場の参加者からも意見をいただいた。

発言の概要は以下の通り。

コーディネーター	高知新聞社 政治部長	遠山 仁 氏
パネリスト	読売新聞論説委員	佐藤三千男氏
	東洋大学経済学部助教授	白石 真澄氏
		(基本政策部会委員)
	愛媛大学工学部教授	柏谷 増男氏
		(道ビジョン懇談会座長)
	須崎市長	梅原 一 氏
	国土交通省地方道・環境課長	森永 教夫氏

(パネルディスカッション概要)

四国の道路は安全・安心の面でまだまだ不十分。

地方の道路をやらなくていいという都市型の議論には反対。命がけで通学しているという現状がある。

四国の山間部の道路事情は劣悪。膨大な未整備箇所をどう整備していくかが課題  
厳しい地形・気象条件の克服・高齢化に対応した安全性の確保のため、道路は基礎的なサービス。

4県連携による本四を活用した観光振興が課題。

8の字ネットは安全・安心を支える上でも国の責任により早期の整備が必要。整備の手方は柔軟に考えていくべき。

中山間地の道路整備を全てやるのは無理。地域主導で整備すべき箇所の選別や道路構造を考えるべき。

行政区域を越えてバランスの取れた道路整備が必要。

道路特定財源は、不十分な道路の整備を進めるための財源として必要。

公共事業全体が縮小する中で、道路特定財源だけが今のままでいいのか議論が必要。

シームレスな交通の円滑化のために道路特定財源を交通結節点整備などへさらに活用を。

遍路道を再現することで、文化の継承や四国らしさを大切にしたい四国は一つの取り組みの推進を。

地方の声を発信していくことが大切。

これからの社会基盤となる道路整備の方向を誤らないよう、単に採算性だけでなく、「命」をキーワードにした道づくりを考えたい。

(会場からの意見)

地域の気運高揚にシンポジウム開催は非常に有意義。

活魚などの生鮮品運搬に高速道路は不可欠。早期の南予延伸を。

地方は人材や食料などの供給で都会の暮らしを支えている。2車線の高速道路等地域に必要な最小限の道路整備を。

市町村合併の基本は道路整備。また、陸・海・空の交通の要は道路であり省庁再編のメリットを活かして。

国道33号の異常気象時通行止めは救急活動・経済活動・通勤通学などに大きな支障。地域高規格道路整備に期待。

地域主導の重要性を痛感。町村合併に寄与する役場間の道路整備を重点的に進めたい。